

Environmental Preservation | 環境への取り組み

■ 三井E&Sグループ地球環境理念

三井E&Sグループは、地球環境の保全が社会に与えられた最重要課題の一つであることを認識し、すべての企業活動を通じて人の健康維持と地球環境の保全に配慮し、環境と調和した豊かな社会の実現に貢献します。



● 三井E&Sグループ地球環境行動指針

1. 環境規制の遵守及び環境負荷の低減

環境関連の法令・協定等を遵守し、必要に応じ自主基準を作成するとともに、技術・製品等の研究開発・設計の段階から、生産・流通・使用・廃棄等の各段階での環境負荷を低減するよう配慮する。

2. 省資源・省エネルギー・リサイクルの推進並びに廃棄物の削減

企業活動のすべての領域で省資源・省エネルギー・リサイクルの推進を図るとともに、廃棄物の削減に努める。

3. 新しい技術・製品の開発による環境保全への貢献

環境保全に寄与する技術・製品の開発を積極的に行い、社会に提供する。

4. 海外事業活動における環境配慮

海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮する。

5. 広報活動の推進と社会活動への貢献

環境保全について積極的な広報活動を行うとともに、適切な技術・情報の提供を通じて地域や社会に貢献する。

6. 環境教育による意識の高揚と社会活動への参加

環境教育・社内広報活動などを実施し、従業員の環境に関する意識の向上を図る。

従業員は地域や社会の環境保全活動への自主的な参加を通して、これらとの信頼関係の構築に努める。

7. 環境管理体制の整備、環境マネジメントシステムの構築

環境管理体制を整備するとともに、環境マネジメントシステムの構築・維持を図り、環境保全の向上に努める。

8. グループ会社との共同歩調

本理念及び行動指針は、より一層の環境保全の効果を上げるため、グループ会社各社への浸透に努め総合的展開を推進する。

環境会計(旧三井造船単体)

環境保全のために投入した投資額と費用額の合計は10.3億円で、詳細を右表に示します。環境保全コストの分類は「環境会計ガイドライン2005年版」の「事業活動に応じた分類」に基づいています。投資額の合計は1.9億円で、研究開発コストに1.5億円、省エネルギーなど地球環境保全コストに6.8百万円、排ガス対策などの公害防止コストに31.1百万円となっています。また、費用額の合計は8.4億円で、環境・省エネ製品の研究開発コストに5.3億円、省エネルギーなどの地球環境保全コストに76.6百万円、資源循環コストに87.9百万円、排ガス・排水対策などの公害防止コストに1.1億円などとなっています。

●環境保全コスト(=投資額と費用額の合計:1,028百万円)

単位:百万円

環境保全コスト分類	投資額	費用額	主な取り組み、効果など
1. 事業エリア内コスト			
①公害防止コスト	31.1	105.2	排ガス対策、排水処理、騒音対策、土壌汚染対策など
②地球環境保全コスト	6.8	76.6	省エネルギー
③資源循環コスト	—	87.9	廃棄物対策、リサイクル
2. 上・下流コスト	—	0.2	グリーン購入
3. 管理活動コスト	8.2	41.1	環境マネジメントシステム運用、事業所緑化、統合報告書、環境教育など
4. 研究開発コスト	147.4	529.7	各種環境配慮製品の開発
5. 社会活動コスト	—	2.2	道路清掃、環境保全協議会、緑化寄付、見学会開催など
6. 環境損傷対応コスト	—	—	
合計	193.4	834.7	

環境マネジメントシステムの充実

●環境マネジメントシステムISO14001認証取得

当社は、ISO14001の認証を、2000年10月に玉野工場で、2001年9月に千葉・大分工場で取得しました。2017年にすべての工場でISO14001の2015年版に移行しました。2018年に玉野工場で、2019年に大分工場それぞれ更新審査が行われ、更新しました。各々の工場では、外部審査機関による年2回の定期サーベイランスが行われ、システム運営状況がチェックされています。



大分工場における更新審査の様子